

水耕ネギの培地廃棄量ゼロと省力・多収・低コスト化技術

問題点

ウレタン培地の廃棄蓄積量が多い。
4.4m³ / 10a / 年 (6作)

通路を移動しながら1株ずつ定植・収穫作業を行うため、効率が悪い。

単価の下落により、収益が悪化している。

平成	10年	11年	12年	13年	14年
単価 (円/kg)	768	653	538	611	552
所得 (万円/10a)	387	235	83	180	102



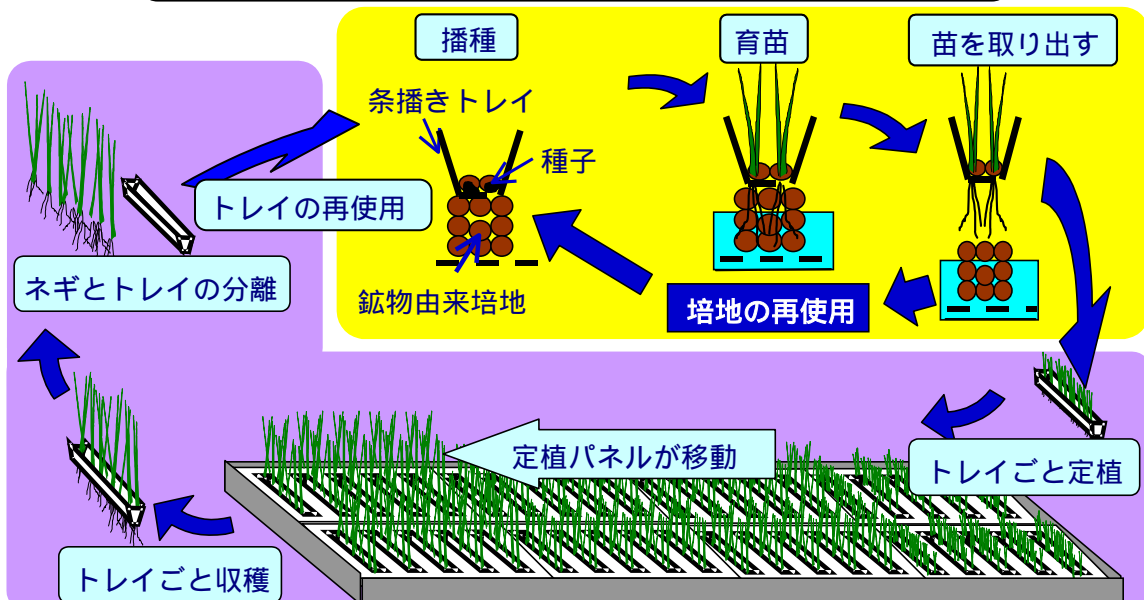
ウレタン培地と廃棄残さ



ウレタン培地ごと1ブロックずつちぎって定植穴に定植し、培地ごと収穫する。

研究目標

培地廃棄量ゼロと省力・低コスト化を目指す育苗法の開発



播種から収穫まで一貫して使用する条播きトレイの開発と作業性の定量評価
(広島東工技センター・㈱あべダンボール)

条播きトレイと鉢物由来培地を組み合わせた育苗管理技術の開発
(広島農技センター)

培地の再利用を可能にする培地洗浄法の開発
(広島農技センター)

作業効率を高める栽培管理器具の開発

定植パネルの移動によりベッドの端で定植・収穫ができる

定植パネル連結器具の開発

定植後の倒伏防止器具の開発

収穫作業台の開発

(広島農技センター・広島東工技センター・㈱あべダンボール)

栽植密度と栽培環境の最適化による多収技術の開発

栽植密度の検討

地上部へのCO₂施用法の検討

養液管理法の検討

(高知大学・広島農技センター)

現地試験

培地廃棄量ゼロと省力・多収・低コスト化